

令和4年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

推進責任者： 附属図書館長

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
図書館の利用環境の整備状況及び活用状況	学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えられていること。	紙媒体（印刷物）の蔵書数、電子情報資源の利用可能種類数、マイクロ資料の所蔵数、視聴覚資料の所蔵数について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の整理（処理）及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めていること。	図書・雑誌受入数、サービス状況、図書館の公開、他機関との連携、電子図書館的機能、機関リポジトリについて、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員が置かれていること	図書館・室の職員数について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えていること。閲覧室には、学修（学習）及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。	施設・設備について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である

* 新型コロナウイルス感染症対策により座席数の一時的な削減等を講じているが、適切である。

令和4年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

2.結果総括

【優れた点】

- R2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症対策下の様々な制限の中での図書館のサービス提供。
 - ・ 附属図書館ホームページ・特設サイト第36回熊本大学附属図書館貴重資料展(オンライン)「廃藩置県と熊本藩」及び同時開催「公開講演会/第15回永青文庫セミナー」動画の公開①
 - ・ バーチャル・オープンキャンパス YouTubeにて「図書館紹介動画」更新版及びオープンキャンパス特設サイト公開②
 - ・ 自学自習に役立てる電子ジャーナルのバックファイルや電子ブックを整備し、本学教員や学生が永続的に利用可能となり、学術研究基盤の充実を図る。
電子ジャーナル・電子ブック等へのリモートアクセス情報の提供、加えて、医学系関係の電子ブックのパッケージについて、トライアル導入後、購入し、様々な制限にあるコロナ禍においても、学修機会の提供を図る③
- 図書館管理運営の改善
 - ・ 設備MPを活用し、中央館南棟1階閲覧室・蛍光灯からLED照明へ設備改修し、快適な学修環境の提供と光熱費、蛍光管費用の削減 ④
 - ・ 学長裁量経費により、中央館、医学系分館の防犯カメラの更新及び増設により、経年劣化等による不具合を解消し、より安全安心な学修環境を提供 ⑤
 - ・ 蔵書点検の効率化として、閲覧室の一部資料にQRコードを貼付し、蔵書点検作業の負担の軽減を試行した。⑥
 - ・ 公益財団法人田嶋記念大学図書館振興財団 令和3年度助成金に「動画と2次元バーコードを活用した蔵書点検の実証実験」が採択され、R4年度に蔵書点検の効率化へ実験を開始する。⑦
- 図書館資産の充実・活用
 - ・ 除却候補図書の再貸出を実施し、図書資産の効率的な活用への改善。⑧
 - ・ 永青文庫研究センターと連携し、本学所蔵の貴重資料である松井家文書（松井一紙）のデータ化を進めるとともに、これまでの貴重資料の整備・公開計画の実施報告を作成した。⑨
 - ・ Nature姉妹誌の追加購読⑩
 - ・ 電子ジャーナルに関する購読アンケートを実施し、実態に即した電子資料の充実を図る。⑪
 - ・ 品切れ図書の入手手段として、Amazonから書籍（古本）の公費購入の取り扱いを開始し、迅速な古書の入手による図書資産の充実へ繋げた。⑫
 - ・ 三菱財団2021年度文化財保存修復事業助成に採択され、熊本大学所蔵「熊本藩関係貴重資料群」の修復に着手⑬
 - ・ 学内ワークスタディーの活用により研究室からの返却図書約2,400冊を整備し、返却図書の有効活用を進めた。⑭
- 研究支援及び附属図書館の国際化に関する取り組み
 - ・ 令和4年1月にドイツの文献提供機関subitoに機関登録を行い、海外からの文献入手の幅を広げた。⑮
 - ・ 次期リポジトリシステムであるWEKO3について、Web of Scienceに本学の所属教員の論文が掲載された際に、通知される実証実験に参加し、リポジトリの機能強化を促進させた。
このことにより、今後、正式に運用が開始した場合、関係教員にリポジトリ掲載を積極的に依頼できる等、熊本大学の学術研究成果活用に進展が期待できる。⑯

【改善を要する点】

特になし